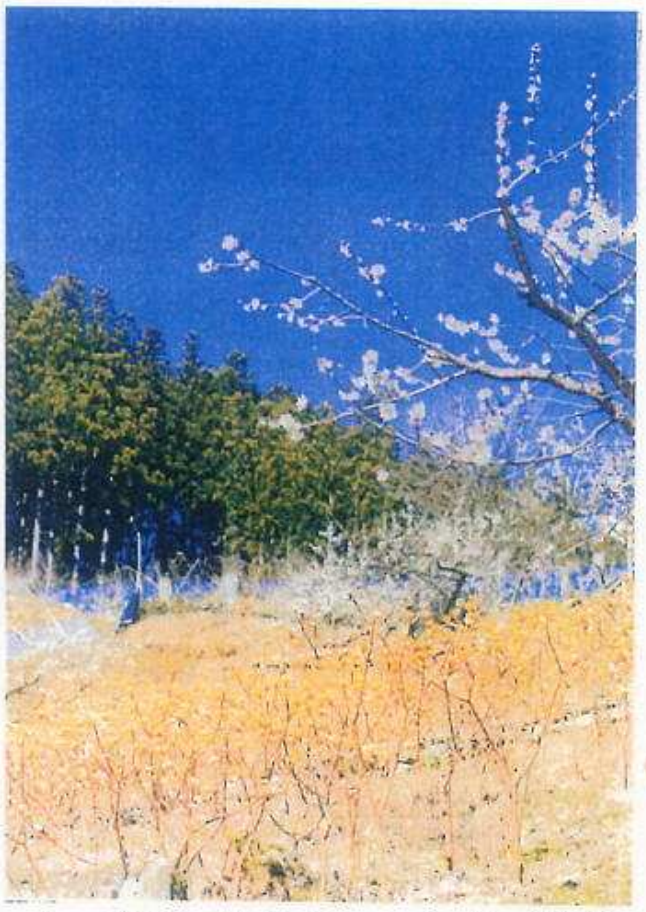
てんぜん新聞

'16.4.No.226
発行責任 市岡[illegible]
0893-88-5[illegible]

一むきに
藤ならびて
辛夷かな
立子



やっぱり春はいい初

夜あけと共にウグイスの鳴き声がする。まだ、フトンの中でまどろみながら聞いているのが、この所の朝のひととき。毎年同じ様に時間は流れている様ごと、違ってることもある。

今年は、ウグイスの第一声も遅かった。そして、椿は、どの木も赤い花がいっぱい咲いているし、梅も標高400～500M位の渠道、国道ぞいでは、三月末に咲きはじめている。山桜があちこちで目立つのも今年。花といえば、やっぱりウバメ、ツバキ、ダンコウバイの黄色からはじまって、もう名ンバも咲きはじめた。いつもの年より花が多いようだ。

当ここら、ミツバツツジも咲きはじめている私の好きなユキワリイチゲも見かけた。モミジ、ツバキ、ヒラウチ、ヒラウと舞いはじめている。

やっぱり春はいいもんだ。

三月中旬に、高いれが白くなったりしたが、ようやく祖谷の山にも春が来た。

さうすぐ、ゼンマイ、ワラビが頭を出しはじめ、山菜が気になりはじめる。

楽しみの春の一つであります。

そんな青空のもと、コーヒーを入れて、庭にイスを出し、向こうの山々を眺めながらの一杯、そんな時間が持てることが嬉しい。

周が見時よく感じるようになった。

静かな、祖谷渓でも、遠くでアオゲラのドラミンの音が響いている。

小鳥の鳴き声も多くなってるようだ。

山雀も、エサの虫が多くなったのか、寄りつきが少なくなったようでもある。

なにもかも、生きうる物は、すべて春がきて動きはじめてるのが良くわかる。

世の中の、様々な出来事が他人事の様にも思えるが、なんとなく気にはなります。

「いまだけ、カネだけ、自分だけ」にならない様に心って、生きていければ、いいかなあ～。

～ヤマルリソウ～

～ユキワリイチゲ～